

大智学園高校・通 対 天理高校

■球場 明治神宮野球 第1試合 5回戦 決勝 ■試合時間 2時間10分 ■備考

■審判 球審:松山 塁審:中山 栗村 須田

[illegible]

天理

[illegible]

■ バッテリー

投手	捕手
片山 蒼四郎	田中 誠
奥田 泰人	

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責	投球数
片 山 蒼四郎	7	27	2	5	4	0	104
奥 田 泰 人	2	7	0	2	1	0	32

大智學園・通

[illegible]

■バッテリー

投手	捕手
鯉田博光	三本蒼大

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責	投球数
鯉田博光	9	36	7	3	2	2	128

■戦評

神宮球場で行われた第73回大会の決勝は、天理高校と大智学園高校・通信制の対戦となり、第71回大会以来、2年ぶりに同じ顔合わせとなった。1回、大智学園は先頭の神林が四球で出塁すると、犠打と盗塁で好機を広げる。その後、一、三塁からの捕手の送球エラーの間に1点を先制した。追いつきたい天理は3回、9番松井の適時打で同点に追いつくと、さらに2番長谷川の適時打で勝ち越しに成功する。反撃したい大智学園は4回、先頭の6番村岡が三塁打を放ち、絶好の好機を作る。しかし、後続が打ち取られ、得点には至らなかった。追加点が欲しい天理は8回、先頭の長谷川が二塁打で出塁し、再び好機を作る。しかし、大智学園捕手・三本の好守もあり、追加点を奪うことができなかった。最終回、何としても同点に追いつきたい大智学園だったが、マウンドに熟したエース・片山を中心とした天理の守備の前に好機を作ることができず、2-1で天理高校が逃げ切った。天理高校は2年ぶりの優勝を果たし、熱戦の幕を閉じた。天理高校は、攻守にわたって隙のない野球を披露し、最後まで試合の主導権を握った。敗れた大智学園も、バッテリーを中心に粘りの戦いを見せたが、大会連覇にはあと1歩届かなかった。